

# 医療従事者における倫理的行動の尺度開発 および臨床倫理活動との関連性の検討

---

2026.3.21

松田麗子（名古屋葵大学）  
澤田美和（名古屋市立大学）  
森木ゆう子（大阪公立大学）

明石恵子（名古屋市立大学）  
中神克之（名古屋葵大学）  
江口秀子（鈴鹿医療科学大学）

本研究に関連し、開示すべきCOIはありません

# 背景

- 臨床現場では倫理的な判断と行動が求められている
- 多職種が共通に使用できる定量的評価尺度は限られている
- 臨床倫理活動の倫理的行動への影響は十分に検証されていない



# | 研究目的と対象

1. 医療従事者全般に適用可能な倫理的行動尺度の開発
2. 倫理的行動と臨床倫理活動との関連性の解明



A地方の  
医療機関10施設



対象 (n = 258)  
医師, 看護師, 薬剤師, 理学療法士,  
作業療法士, 言語聴覚士,  
ソーシャルワーカーなど

# | 方法

## Web式質問紙調査



以下の臨床倫理活動経験との関連を分析した

- カンファレンス参加
- 倫理学修経験
- 倫理教育実施経験

倫理的配慮：所属機関の研究倫理審査承認済（承認番号：24039-2）

# 結果①：回答者の概要

## 回答の概要

配付数：8施設 2025名

有効回答数：258名 (12.7%)

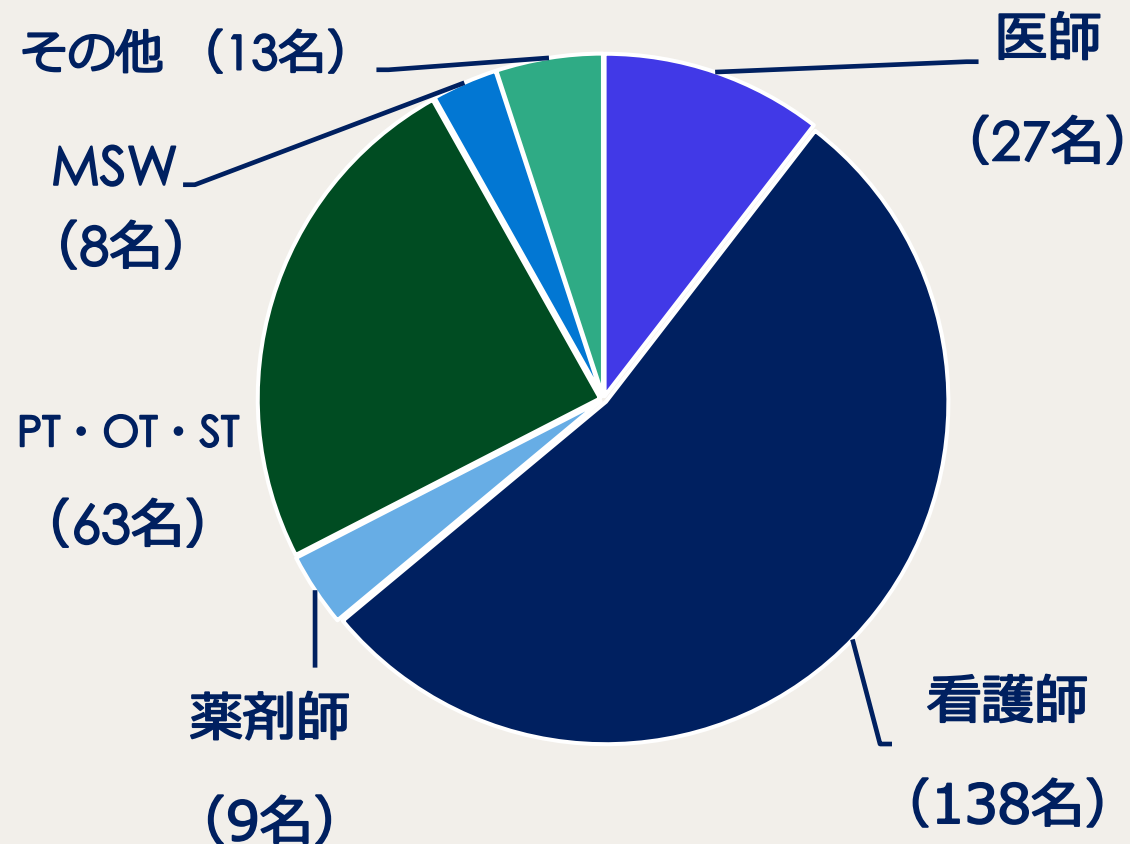
## 性別人数

無回答8名

女性161名  
(62.4%)

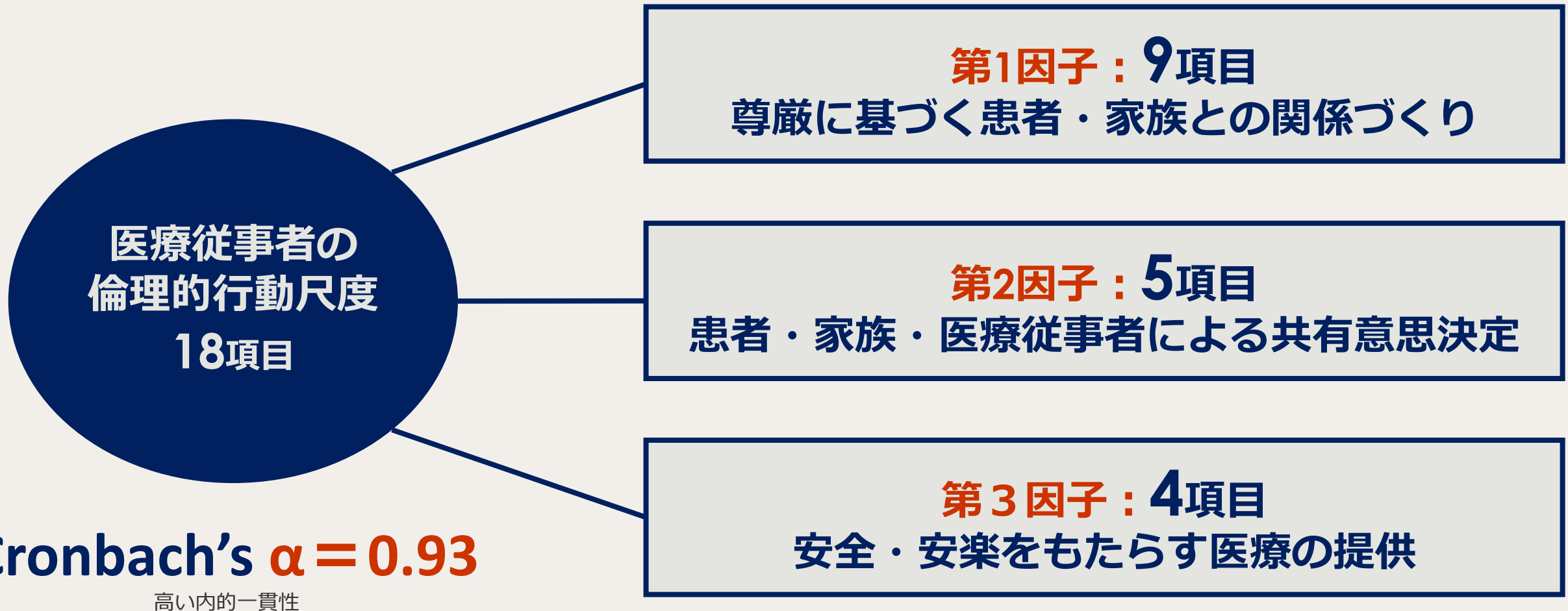
男性89名  
(34.5%)

## 職種別人数

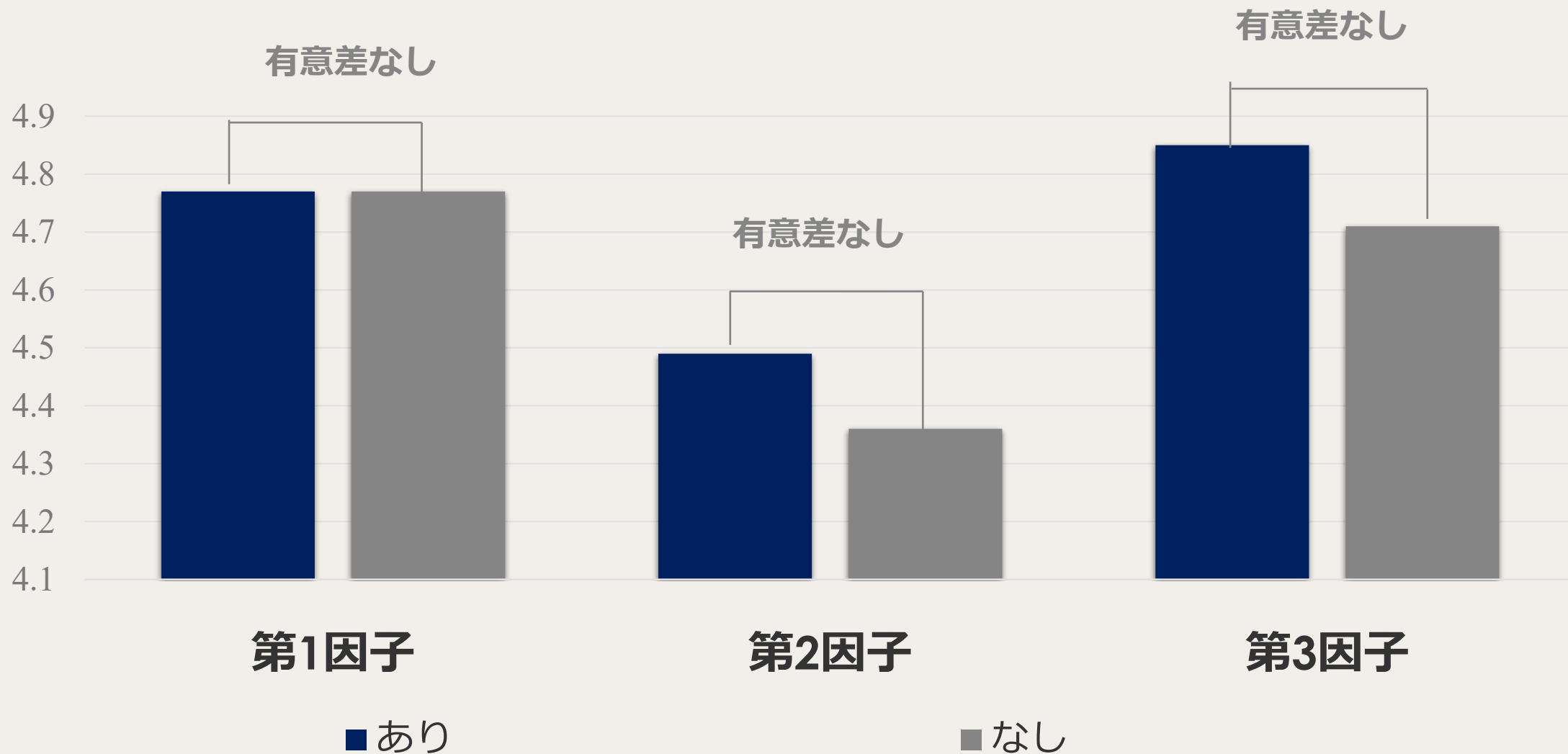


## 結果②：倫理的行動尺度の妥当性・信頼性

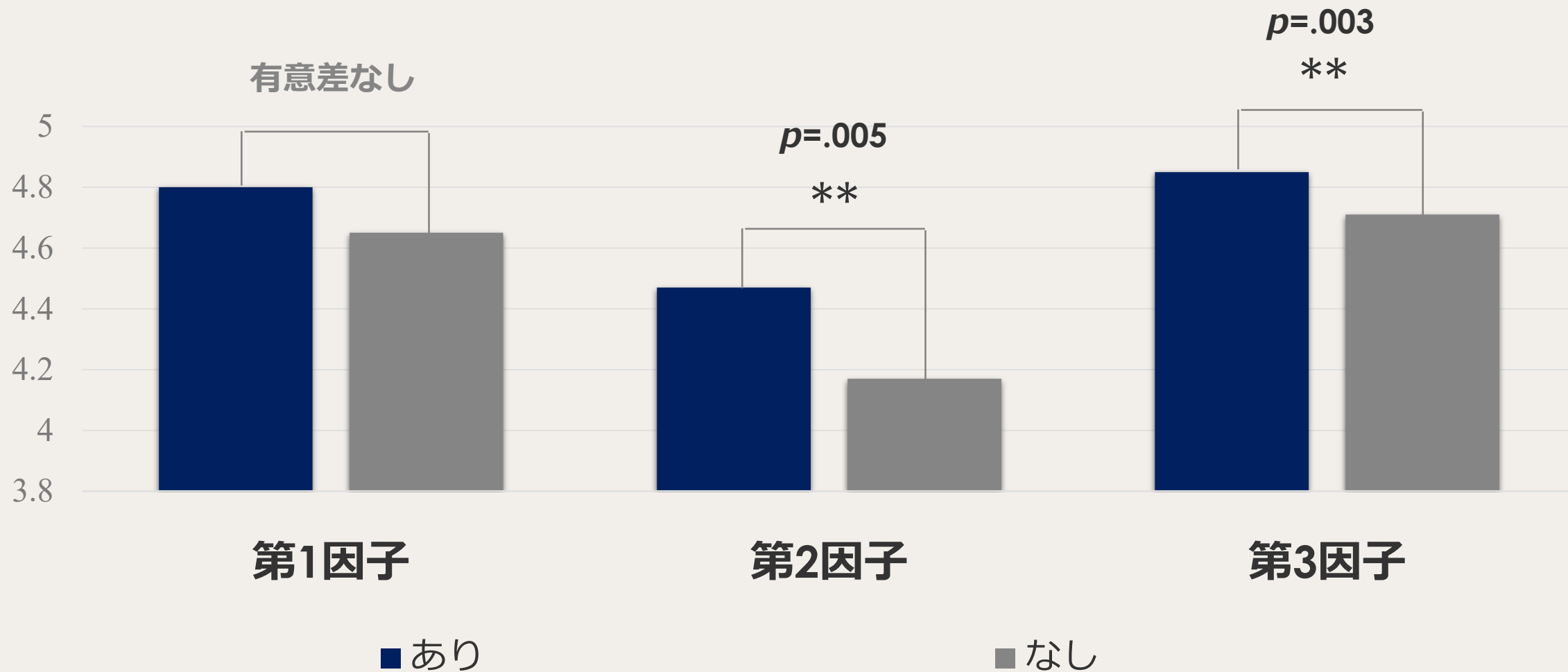
因子分析の結果、2項目が除外され**18**項目となった。



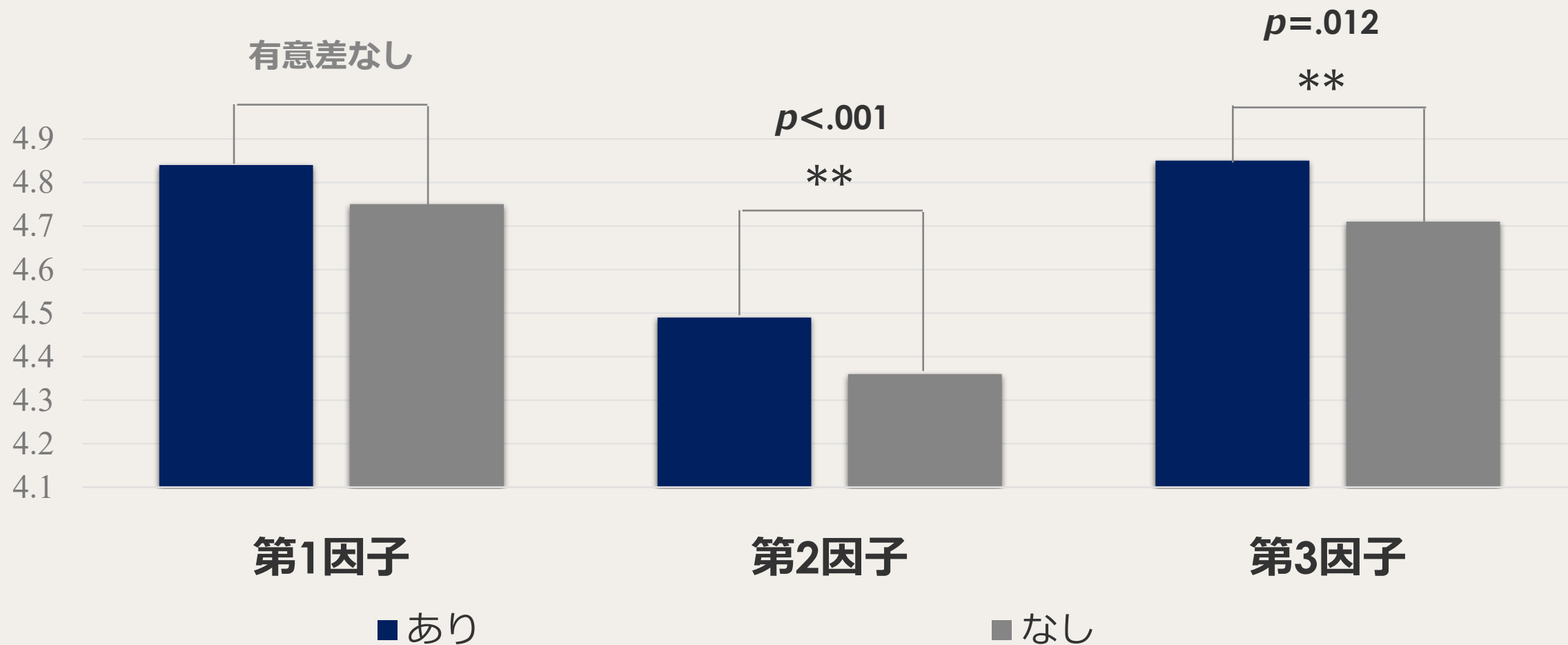
# 結果③：倫理的行動とカンファレンス参加との関連



## 結果④：倫理的行動と臨床倫理学修経験との関連



# 結果⑤：倫理的行動と臨床倫理教育の実施経験との関連



## 考察①：尺度開発の意義

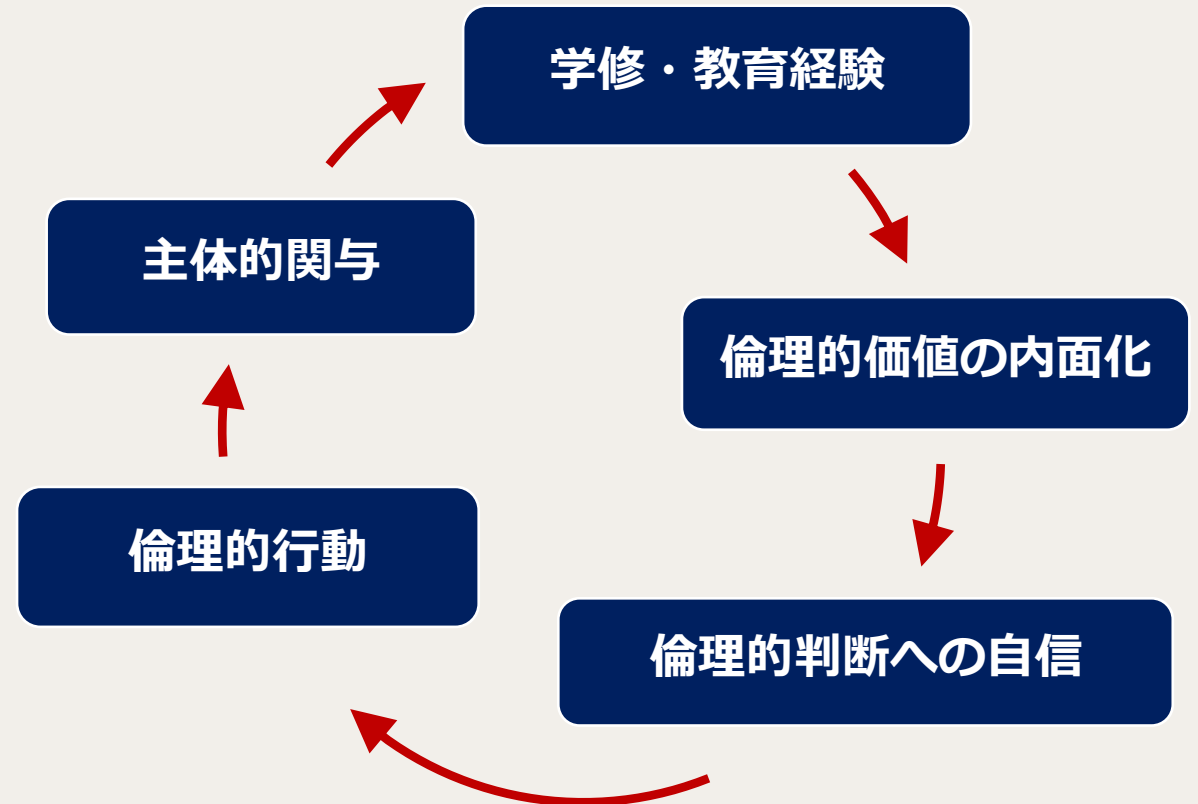
- ・ 探索的因子分析により構成概念妥当性を確認した
- ・ 高い内的整合性が示された
- ・ 医療職全般に適用可能な「倫理的行動尺度」が開発された

医療従事者に対する縦断的な倫理的行動の測定に活用可能

## 考察②：倫理的行動と臨床倫理活動との関連

倫理的行動を形成する循環過程（本研究の結果より）

- 倫理カンファレンスへの参加は倫理的行動と関連がなかった
- 倫理的行動は倫理教育の学修経験や教育実践と関連する



Grady, et al.(2008), Knatiban, et al.(2021), Anderson, et al.(2022)

単発な教育ではなく、循環する継続的な倫理教育が重要

## 結論

- 医療従事者に共通する倫理的行動尺度を開発した
- 倫理的行動は、倫理カンファレンス参加の有無とは関連しなかった。倫理教育に関する学修経験と教育実施経験と関連した。

## 限界と今後の課題

- 低有効回答率（12.7%）により、意識の高い層に偏った可能性
- 多職種のバランスの取れたデータが必要

ご清聴ありがとうございました。